

演題： 処方薬情報に基づく推定疾患名から疾患別服薬指導ガイダンスデータベースへの展開

○柴田 里枝子 夫馬 慎弥 杉平 直子

メディカルデータベース株式会社

<目的>

近年、調剤薬局の重要な役割として、慢性疾患の患者に対する総合的な薬物治療管理が求められている。

そこで我々は、医薬品ごとに服薬指導データを搭載した「薬剤別服薬指導ガイダンスデータベース」に加え、薬局でよく遭遇する慢性疾患の視点から薬物治療管理と薬歴記載を支援する「疾患別服薬指導ガイダンスデータベース」の開発を行っている。

しかし、薬局では処方薬を起点として服薬指導を始めるのが一般的であり、また患者の疾患名情報が得られないことがあるため、電子薬歴等のシステムで運用する場合、「疾患別服薬指導ガイダンスデータベース」は活用しにくいという問題があった。

そこで今回、処方薬情報から直接、「疾患別服薬指導ガイダンスデータベース」を運用することを目的に、医薬品名と疾患名を関連づけることを試みた。これにより処方薬の情報を起点として、「薬剤別服薬指導ガイダンス」と「疾患別服薬指導ガイダンス」の両方のデータベースを活用した総合的な服薬指導が可能になると考えた。

<方法>

まず「疾患別服薬指導ガイダンスデータベース」に搭載している、消化性潰瘍、骨粗鬆症、パーキンソン病、睡眠障害、気管支喘息、高血圧症、脂質異常症、高尿酸血症・痛風、2型糖尿病、関節リウマチ、アトピー性皮膚炎、緑内障、貧血、慢性頭痛、更年期障害、便秘症の16疾患に対する治療薬を、各医薬品の効能効果より定義した。

次にその定義に基づき、YJコードごとに疾患関連コードとして「疾患別服薬指導ガイダンスデータベース」内の疾患名コードを付与した。

<結果及び考察>

YJコードに16疾患の疾患名コードを付与したことにより、疾患ごとの治療薬の抽出、また処方薬から推定疾患の提示が可能となった。これにより処方薬から直接、関連する疾患の「疾患別服薬指導ガイダンスデータベース」を展開することができる。

その結果、「薬剤別服薬指導ガイダンス」、「疾患別服薬指導ガイダンス」の両データベースを電子薬歴等のシステムで連動して運用することができ、慢性疾患に関する薬物治療管理の効率化や、治療効果のさらなる向上が期待できると考える。

879 文字

<キーワード>

処方薬 慢性疾患 服薬指導 薬物治療管理 データベース